

私の環境学

平山 琢二

生物資源管理学科

2015年4月1日に着任する予定が、諸事情により約2ヶ月遅れの6月10日付けで着任することができました。これまで海に囲まれた環境の中で、教育研究に取り組んできましたが、ここに来て大きな環境の変化に戸惑いながら、一方で変化の大きさに希望？野望？が膨らみ胸躍る気持ちであることも事実です。幸運にも与えられたこの環境を活かして、残りの教育研究人生を謳歌してみようと意気込んでいるところです。

さて、私の教育研究の出発点は「畜産学」の中でも草食獣である牛や山羊などを対象とし、栄養生理学や行動学といった分野からアプローチするものでした。我々人と同じように多くの動物は暑いとき、避暑行動で熱ストレスを回避しようとします。この行動は、どのような生理機序によるものなのか、さらに生理機構と行動発現の関連性などについて、牛や山羊で実験データを元に検証したのが、研究生活の第一歩でした。その研究を通して得た牛や山羊などの胃運動を計測する技術を活かして、放牧環境などでの実験データ取得法に関する、今で言うところのIT技術に関する研究に着手しました。その後、中国海南省にある海南師範大学自然科学部に1年滞在し、中国の一级保護動物に指定されているエルディ鹿の生態調査をこれまでに開発した機器を用いて地元大学と共同で実施しました。そのような経験を通しながら、野生動物までを教育研究で取り扱うようになっていきました。一方で畜産分野に関する研究では、地元地場産業の活性化という視点から、地元企業と共同で未利用資源を活用した飼料調整、さらにそれを用いた家畜生産技術などを地元農家と共同で行い、地域ブランドの強化を進めておりました。先に話したIT技術では、当初は反芻動物の胃運動を計測するのみでしたが、放牧環境下で計測する場合、何をしているのかというのが見えないため、データの解析が困難となります。そこで、牛が牧草を食べているのか、休んでいるのか、反芻をしているのかなどを同時に計測できる機器の開発を行いました。これによって、牛がどこでなにをしているのかということがリアルタイムで計測可能となりました。その頃、GPSの急速な精度の改善と普及があったことが、この研究を大きく助けてくれました。現在ではICTという双方向に富んだ技術開発を他大学や民間企業と共に放牧地に夢を描きながら進めているとこ

ろです。ここまでで教育研究に携わって約15年くらいだと記憶します。出発点はきわめて些細なことなのですが、それが元でひとつの研究テーマになるなど実に楽しく幅広く教育研究を行わせていただいております。

そんな中、大学施設の有効利用について指摘があり、その関係からヤンバルクイナを取扱うようになりました。初めての鳥類で、野生動物。なんとも不安な中、さらに有効利用に関しての業績も要求されたことから、何ともいえない気分の中で研究していました。何とか会計検査での対応は無事に終えたので、それなりの成果ではあったと思います。

さて、また畜産分野の研究に戻りますが、その頃は牛肉の生産者と消費者の目線の差異に注目し、それらに関連して牛肉の美味しさと成分や調理法などの関連性に関する研究を行っておりました。和牛肉の価格に関する指標の一つとして成分が取抜われる場合があります。これらは主に味に関連する脂肪酸などの成分量で示されますが、その量が多いことが美味しいというような統計結果もないことから、一部市場で混乱をきたす場面もあります。そこで和牛肉の美味しさを指標化しようという動きが活発化し、さまざまな方面からの調査が現在も進められています。このように、教育研究現場で約20年間を海に囲まれた環境の中で過ごしてきました。

これからも約20年近くは教育研究の現場に携わってられるものと期待しておりますが、合計40年の教育研究期間と考えたら、丁度半分のタイミングで赴任してきたこととなります。まずここを半分ととるか、折り返しととるかでだいぶ気持ちも変わってくるのではないかと思います。私自身、これまでの教育研究を踏まえての、『これからの20年』と考え、ある意味で通過点、そして新たな出発点でもあると考えています。これまでの実績を活用し進めたい教育研究もあり、その一方で新たなテーマにも挑戦していきたいと思っています。

野生獣による我々人への被害に関しては、これまで蚊帳の外からしか見てこなかったのですが、それが目の前でなされている現場に立つことで、色々知りたくなり、さまざまな興味が沸くと同時に何か役に立てることがあるのでは？という気持ちで昨年より取り組みを始めているところです。猟銃の所持資格や狩猟免許を取得し、地元猟友会に足を運び連

絡を密にしなが、少しずつ焦らずに動き出せばと思います。畜産分野においては、県畜産技術センターと共同で地域の諸問題などを解決していけるような取り組みができればと思い、現在問題抽出中といったところでしょうか。また、大学横に広大に広がる海のような琵琶湖があります。とても大きく圧倒されてしまいます。そこで何かできないかと思い、ダイビングや潜水士の資格があるので、とりあえず潜ってみようと、10月の下旬頃に琵琶湖北部における貝類の分布と水草分布の関連性と題して潜水調査しました(写真参照)。

まだまだ右も左もわからない環境の中で、手探り中ですが、少しずつ何かを得て、それを教育研究に活かし、地域に貢献できるような仕事ができればと思います。地域の発展に寄与することはわれわれ大学人に課せられた使命の一つでもあると思います。地域と共に歩み、成長する大学。大学から彦根・滋賀・近畿・日本の地場産業に貢献できるよう、日々発憤興起しながら、楽しくやっていきたいと思っています。



写真 琵琶湖調査時の大学艇上で